

## 研究実施における情報公開 (松戸歯学部単独研究)

研究の名称：MRI を用いた下顎骨骨髄炎の ADC 値についての検討 (承認番号 19-011)

研究機関の名称：日本大学松戸歯学部・放射線学講座

研究責任者：金田 隆

研究期間：令和 1 年 7 月 22 日～ 令和 6 年 7 月 21 日

### 1. 研究対象者

日本大学松戸歯学部附属病院放射線科にて 2006 年 4 月から 2018 年 3 月までに骨髄炎の疑いとして、MRI 検査を受けている方

### 2. 研究目的・意義

#### 目的

下顎骨骨髄炎は下顎骨の広範囲における難治性の炎症性疾患である。骨髄炎の確定診断は骨組織の病理学的検査ですが、侵襲的な検査で急性期には適用できません。そのため、非侵襲的な画像診断によって骨髄炎の治療につながる情報が得られることが望ましいです。しかし、従来の単純エックス線検査では下顎骨骨髄炎の診断は困難です。ADC 値は水の拡散現象を利用して画像化と数値化したものです。近年、MRI における下顎骨骨髄炎の診断の有用性が報告されてきています。しかしながら、下顎骨骨髄炎と MRI における ADC 値の関係性についての報告は乏しいです。

本研究の目的は、下顎骨骨髄炎と MRI における ADC 値の関係性を検討し、将来的な下顎骨髄炎の予測に有用なリスク因子を確立させることです。

#### 意義

下顎骨骨髄炎は下顎骨の広範囲における炎症性疾患であり、慢性化すると治療に強固な抵抗性を示し、患者の生活の質を著しく損なうことが知られています。下顎骨骨髄炎は、一般的に口腔内細菌による感染により引き起こされますが、薬剤性骨髄炎や放射線性骨髄炎等の非感染性の骨髄炎も知られています。医科での投薬や放射線治療は患者の生命予後の為に不可欠であり、歯科医師としてそれらに続発する骨髄炎を予測することは非常に重要です。これらの非感染性の骨髄炎のメカニズムは未だ解明されていませんが、過去の研究により、自然免疫の活性により引き起こされる可能性が示唆されています。今回我々は、MRI における下顎骨骨髄の変化に着目し、下顎骨骨髄炎と MRI における ADC 値の関係性を検討することで、下顎骨骨髄炎の予測、早期発見および治療法の確立を目的とします。

### 3. 方法

2006年4月から2018年3月までの期間、骨髄炎と診断されている患者約1300名の下顎骨骨髄のADC値の違いを評価していきます。今回の研究では、骨髄炎として統一し評価していくため、病態、治療期間、治療方法等に関して考慮せずに評価していきます。

### 4. 研究に利用する試料・情報等

情報：診療録情報（年齢・性別・MRI画像データ）

### 5. お問い合わせ先

本研究は、倫理審査委員会の承認を受けた研究計画書に従い、お預かりした試料・情報等には匿名化処理を行い安全管理措置を講じたうえで取り扱っています。研究の詳細をお知りになりたい場合は、下記までお問い合わせください。他の方の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲で、研究計画書等を閲覧することが出来ます。

本研究で得られた成果を専門の学会や学術雑誌に発表する可能性があります。成果を発表する場合には、研究に参加していただいた方のプライバシーに慎重に配慮します。個人を特定できる情報が公表されることはありません。

なお、研究対象者に該当すると思われる方で、ご自身の試料・情報を「この研究で利用して欲しくない」と思われた場合にも、その旨をご連絡下さい。ご了承いただけない場合には研究対象といたしません。また、その場合でもご自身に不利益が生じることはありません。

### <お問い合わせ先>

研究責任者：日本大学松戸歯学部・放射線学講座・教授・金田 隆

電話番号：047-360-9418

以 上